

# 農の架け橋 地域と共に

— 白子町農業委員会だより NO. 29 —



令和2年3月  
編集・発行/  
白子町農業委員会

農業委員及び農地利用最適化推進委員を皆さんに紹介します。

## 農業委員会の果たすべき責任…地域農業のために

白子町五井 片岡 茂 さん（農業委員会 会長）

風冴える1月、中里地区にあるガラス温室団地に入った。一面に広がる緑はどこまでも澄んでいて、心を暖めてくれる。「農業は、自らの努力、加減で決まる。私も、この場所でいろんなことを教えてもらったよ。」と、葉の状況を確認しながら感慨深げに語る 片岡さん。農業委員3期目となり、現在、会長を務める。妻の綾子さんとともに、水稻8ha、トマト、サラダ菜の施設野菜5200㎡に取り組んでいます。

就農して45年。初めは、水稻、トマトの土耕栽培に取り組んでいたが、持ち前の探求心で水耕技術にいち早く注目し、昭和59年にミニトマトの水耕栽培を開始。平成元年7月、有志9名で農事組合法人「白子グリーンファーム」を設立し、新たにサラダ菜の水耕栽培に取り組み、年間を通じての生産・販売、または従業員の通年雇用を可能とした大規模施設園芸を展開した。そして、現在も、水耕栽培の先駆者として指導的な役割を果たしています。



「新制度・新体制でスタートした農業委員会も3年目となり、遊休農地対策及び農地利用の適正化、または、人・農地プランの実質化等 農業委員会に求められるものは大きくなってきている。すべては、地域の農業、農業者のため、今風に言えば、農業委員、推進委員“ワンチーム”となって、その責任と役割を確実に果たしていきたい。」と語ってくれました。日ごろから、農業に打ち込む熱心さと責任感の強さ、またその温厚な人柄から、周囲の人望も厚く、技術、経営両面において、多くの農業者への心強い支えとなっています。



【一面に広がるサラダ菜 県下第1位の産地】



【「白子ライスセンター」の精鋭有志達】

『飼料用米などを作付しましょう！』～米価安定のためには米の生産調整が必要です～

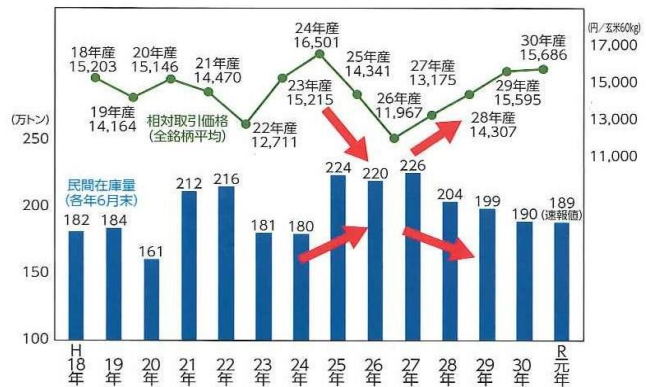
米の需要量は、人口減少や食生活の変化等により、全国で年間約10万トン減少(1.9万ha相当)しています。米の需給と価格の安定を図るためには、需要量に見合った生産を行うことが重要です。飼料用米を作付するなど、需要に応じた生産を心がけましょう。

○生産量が需要量を上回り、生産過剰になると、米価下落が懸念されます。

- 主食用米の需要量は、これまで年間8万トンの減少とされてきましたが、最近では、人口が減少局面に入ったことにより、年間10万トンの減少となり、減少幅が拡大しています。
- 民間在庫量が増えると、相対取引価格が下がる傾向が見られます。



主食用米の需要量の推移



相対取引価格と民間在庫量の推移

注: 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月(30年産は元年7月)までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

資料出典: 農林水産省「米をめぐる状況について(令和元年8月)」

○なぜ、飼料用米を作付するのか？

- 飼料の自給・自給率を向上し、日本の畜産物の安定供給を図る。  
家畜の飼料は、とうもろこしなどの穀物を原料としていますが、現在、そのほとんどを輸入に頼っています。畜産物を生産するため大量の輸入穀物が必要であり、これは、海外の穀物価格や為替相場の変動により、日本国内での畜産物の価格、生産量にも影響してしまいます。日本の畜産物の安定供給を図っていくため、飼料に国内の米を活用するなど、飼料の自給・自給率の向上が必要となっています。
- 日本の環境や国土を守っている水田を減らさないようにする。  
米の消費量は年々減少しており、国民1人当たり年間消費量は、1962年(昭和37年)の118kgをピークに、2017年(平成29年)は54kgと半分以下になってしまっており、また、生産者もこの30年ほどで半分以下に減少しています。このままでは水田の耕作放棄が懸念されていますが、水田の機能は米作りだけでなく、空気清浄、温暖化の防止、水資源の確保または自然ダムなど、自然環境や国土を守る役割も持っています。水田が減ってしまうということは、単に農業の機能だけでなく、多くの機能を失うことになります。減少する主食用米に代わり、飼料用米を作付することで、日本の環境保護、国土保全に努めていくことが大切です。

○飼料用米にはこんな経営メリットがあります！

- 主食用米と変わらず、お手持ちの機械、施設を使って生産できます。
  - 品種によっては、主食用米と収穫時期をずらして取り組むことができます。
  - 畜産農家、または飼料メーカーから需要があります。
  - 国、県及び町からの交付金が占める割合が高いため、出来秋の米価の変動を受けず、安定した収入を確保することができます。
- ※ 詳しくは、白子町役場産業課(0475(33)2115)まで、お問い合わせください。